



関東甲信、記録的な大雪

豪雪地帯とは、冬に大量の積雪がある地域のことを言う。

恒常的な降積雪によって住民の生活水準の向上や産業の発展が阻害されてきたことを踏まえ、19

ではない関東甲信地域から、「観測史上1位の記録的な大雪」とのニュースが飛び交った。

6日前の2月8日から9日にかけて45年ぶりに積雪27cmを記録した東京都心にも、再び同じ量の雪が14日深夜から15日未明にかけて

大幅に塗り替えることになった。

特に甲府市、前橋市、熊谷市は、過去120年ほど続く観測史のなかで最大の積雪となり、「歴史的な大雪」に見舞われた。

豪雪地帯であれば、道路には消雪パイプやロードヒーティング、流雪溝などのハード対策が整備され、地域住民の雪害対策は習熟度も高い。

だが、積雪の少ない地域に降り注いだ大雪は、雪害への脆さのみが浮き彫りとなって現れ、17日月曜日、業務休止を余儀なくさせられたデイサービスもあった。

理不尽な「要求」と「扱い」

長野県境に近い群馬県側の山間地ではあるが豪雪地帯に指定されていない事業所での出来事である。

14日夜、帰宅しなければ良かったと反省しきりの事務長は、自らの判断の甘さを語ってくれた。

15日早朝、腰の高さに達した雪道をラッセルしながら徒歩で4時間近く要して事業所に到着。20km以上も離れた遠方から駆けつけた人がいる一方、近くにいながらそうした行動をとらなかった人もい

た。

1週間が経過した後、事業所に駆けつけた人とそうした行動が取れなかった人との間に溝が生じた。理由はどうかあれ、事業所に駆けつけた人は、駆けつけなかった人に対しての視線が冷たい。あの目までは、お荷物のように手を焼かせる存在であったのが、駆けつけたことで評価が手のひらを返したように一変した人もいた。

その反動は、駆けつけなかった人への言動に注がれている。駆けつけた人たちは、駆けつけるまでの間、そして駆けつけた後も雪かきに追われ続けた。だが、駆けつけなかった人も駆けつけられないほどの雪に立ち往生させられていたのである。

積雪の少ない地域に降り注いだ大雪は、そこで暮らす人たちに除雪作業という「理不尽な要求」と「理不尽な扱い」を経験させられたに違いない。

雪害という自然災害に直面させられた経験から得る学び、それはどのようにして「理不尽なこと」に向き合っていくのかである。これは、要介護認定を受けた人の思いも同じではなからうか。

転期に立つ経営の視座①

「理不尽なこと」に向き合う

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

降り注いだのである。

山梨県内は、1日で約1mの積

62年に制定された「豪雪地帯対策特別措置法」に基づいて豪雪地帯と指定された地域は、国土の約51%の面積を占め、総人口の約15%が暮らし、雪害の防除をはじめとした総合的な豪雪対策の実施が行われてきた。

2014年2月15日、豪雪地帯

飯田市で81cm、群馬県前橋市で73cmと、観測史上1位の積雪記録を

雪となり、富士河口湖町で143cm、甲府市で114cmを記録。周

辺の埼玉秩父市で98cm、熊谷市

で62cm、長野県軽井沢町で99cm、

飯田市で81cm、群馬県前橋市で73

